

indicates hyaline body. J: Gone cell. K: 8-celled stage in gone colony formation. L: Gone colony in gelatinous envelope. Scale in Fig. A is 600 μm . Each scale in Figs. B-L is 20 μm .

* * * *

Astrephomene (緑藻, オオヒゲマワリ目) は *Volvox* 科に類似した群体をもっているが, 群体形成時に逆転をしないことから *Astrephomene* 科に分類されている出現頻度の低い淡水藻である。現在までに一種 *A. gubernaculifera* Pocock が報告されているだけであり, 日本産の本属に関する詳細な報告はいまだない。

筆者は神奈川県開成町吉田島と葉山町長柄にある水田の表土から形態の異なる 2 種類の *Astrephomene* を単離・培養し, それらの形態と生殖を詳細に観察した。その結果, 開成町から得た藻は *A. gubernaculifera* と同定し, 葉山町産のものは新種 *A. perforata* Nozaki として記載した。*A. perforata* は *A. gubernaculifera* と以下の 3 点で異なる。1) 細胞の被鞘が連結されて群体を構成し, 被鞘間にすき間がある。2) 栄養細胞において培養齡とともにピレノイドが出現する。3) 64細胞性の群体でも32細胞のものでも非生殖細胞を2個もつ。

□Grolle, R.: *Nomina Generica Hepaticarum; references, types and synonymies* 62 pp. 1983. Acta Bot. Fenn. 121. Helsinki. 東ドイツの有名な苔類研究家である Dr. Grolle は命名規約委員もしていて, 豊富な文献学的な知識をもとに, 苔類の学名の有効名につき多数の見解を明らかにしている。今回のカタログは E. R. Far et al. (1979) *Index Nominum Genericorum* を基本におき “invalid” な属名も併せて示し, これがどんな理由で invalid であるか, どの valid name を用いるべきかを示し, 属名の author name を統一ある方法で示し (Sayer et al., 1964 に従って), 分類学的に異名として取り扱われるべきもの, 及びその属名が所属する科や亜科を記号で示している。巻末に現在確認されている (化石も含めて) 苔類及びツノゴケ類の全部の科, 亜科及びそれに分類される属 (及びその異名) が示されている。この分類系にはいろいろ目新しい所もあり, 苔類, ツノゴケ類を72科に分類している。このような仕事は文献学的な研究と共に, 苔類そのものについて相当深く突っこんだ見解をもっていないと出来るものではないが, 著者は見事にこれを果たし, ほぼ完璧と言える形までこの仕事を成しとげている。苔類の分類系を見るときに一つの重要な文献となる。 (井上 浩)